

■東京 2 歳優駿牝馬(SI) アラカルト(過去全 48 回の分析)

※第 1 回（昭和 52 年）から第 24 回（平成 12 年）までは「東京 3 歳優駿牝馬」の名称で実施

※第 25 回（平成 13 年）、第 26 回（平成 14 年）は 1,590m で実施

※第 34 回（平成 22 年）からは地方競馬全国交流競走として実施

※記録は令和 7 年 12 月 17 日時点

■1 番人気馬はまずまず堅実だが……

単勝 1 番人気馬は 20 勝、2 着 8 回、3 着 5 回で、3 着内率が 68.8%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 7 回、3 着 2 回で、3 着内率が 43.8%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 5 回、3 着 7 回で、3 着内率が 31.3% となっている。単勝 1 番人気馬が優秀な成績を収めている一方、単勝 2 番人気馬や単勝 3 番人気馬の好走率はやや低めだ。

■3 番人気以内の馬が 1~2 着を占めた例は 13 回

過去 48 回のうち 35 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 13 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■外国産馬は 1 勝どまり

外国産馬の優勝例は、現在のところ第 29 回（平成 17 年）のダガーズアラベスクのみである。

■他地区所属馬の勝利も 1 例だけ

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 14 勝、大井が 19 勝、川崎が 12 勝、愛知が 1 勝となっている。第 34 回（平成 22 年）からは地方競馬全国交流競走として実施されているが、南関東地区以外の所属馬による優勝例は、現在のところ第 40 回（平成 28 年）のピンクドッグウッド（愛知）のみだ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、4勝の的場文男騎手が単独トップ。3勝の石崎隆之騎手、戸崎圭太騎手、森泰斗騎手、森下博騎手が2位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録も「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の川島正行調教師が単独トップ。2勝の荒井勝弘調教師、寺田新太郎調教師、長沼正義調教師が2位タイとなっている。

■「2枠」と「4番」が勝利数トップ

枠番別勝利数を見ると、2枠（11勝）が単独トップ。4枠と5枠（各8勝）が2位タイ、6枠（7勝）が単独4位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、4番（9勝）が単独トップ。6番、10番、11番、14番（各4勝）が2位タイ、2番、3番、5番、7番、12番（各3勝）が6位タイである。なお、未勝利の馬番は13番だけだ。

＜伊吹雅也＞